

## 「富山県警察の機能強化を考える懇話会（第1回）」開催結果

### 1 開催日時

令和2年8月31日（月）午後3時から午後5時までの間

### 2 開催場所

富山市新総曲輪1番7号  
富山県警察本部9階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 懇話会委員（10名）

高木繁雄委員、尾畑納子委員、中村和之委員、野口教子委員、島谷武志委員  
瀬川信子委員、小原幸夫委員、夏野元志委員、金森勝雄委員、安藤隆春委員

#### (2) 県警察

警察本部長、警務部長、警務部首席参事官 外

### 4 座長・副座長の選出

座長に高木繁雄委員（富山県商工会議所連合会会長）、副座長に中村和之委員（富山大学副学長）を選出

### 5 議題等

#### (1) 県警察から「県警察の現状と治安情勢」について説明

- ・ 県警察の組織と定員に関して、「県警察の組織」、「警察官・一般職員の定員推移」、「最近の組織改編の経緯」
- ・ 県内の治安情勢に関して、「刑法犯認知件数・検挙率の推移」、「交通人身事故発生件数の推移」、「110番受理件数の推移」、「警察相談受理件数の推移」について説明した。

#### (2) 安藤委員から「社会情勢や治安情勢の変化に適應する警察運営のあり方」について説明

- ・ 社会情勢の変化と治安に与える影響に関して、「人口減少・少子高齢化の進行」、「科学技術の発展」、「多発する大規模災害」、「新型コロナウイルスの脅威」
- ・ 治安情勢の具体的現状に関して、「刑法犯と高齢者をターゲットとした犯罪のトレンド」、「サイバー犯罪」、「ストーカー、DV、児童虐待等」、「交通事故」、「犯罪捜査の困難化」
- ・ 求められる警察運営に関して、「近年の懇話会設置状況」、「他県警における機能強化の方向性」について説明した。

#### (3) 県警察から「新たな警察事象への対応のあり方」及び「ICT・科学技術の活用のあり方」について説明

- ・ 新たな警察事象への対応のあり方に関して、「高齢化」、「サイバー犯罪」、「ストーカー、DV、児童虐待」、「大規模災害」、「新型コロナウイルス」への対応と課題
- ・ ICT・科学技術の活用のあり方に関して、「科学技術の活用事例」、「先進県の活用事例」、「DX=デジタルトランスフォーメーション」、「今後の方向性」について説明した。

## 6 委員からの意見

- ・ 高齢社会や人口減に伴って、犯罪のいろんな種類や中身も変わってくる中で、新しい抑止とか、あるいは対応のあり方を考えていかなければならない。人の知識や能力にはある程度限りがあり、IT 技術、特にデジタルトランスフォーメーションを使って対応していく、そういう方向性が新たに必要になってくる。
- ・ ネット社会という急激な変化を踏まえ、警察にも新しい技術への対応と活用の視点が重要であり、警察情報を民間と活用することで、業務負担を減らす工夫も必要だと思う。
- ・ ネット関係でトラブルに巻き込まれる学生が増えている。この問題は、高齢者だけではなく、若年層の問題でもあり、逆に、しっかりリテラシーの部分に身に付けた学生が社会に出ていくことにより、警察業務の負担軽減に繋がる。
- ・ 装備資機材の確保、AI、ビックデータの活用は非常に重要であるが、コストもかかるので、財源についても考えながら進めていく必要がある。また、合理化についても、警察署単位で見ていく必要がある。
- ・ 犯罪の種類にも地域性というものがあると思うので、その地域にあった対応のあり方が必要になってくると思う。
- ・ 富山県は防犯カメラが少ないという話を聞いていて、もっと増えればいいなと思っていた。無人駅が増えていくという新聞記事を見て、ますます犯罪予防という観点から防犯カメラが必要になってくると思う。
- ・ ストーカー、DV あるいは児童虐待に関しては、結果が重大になることがある。やはり、情報共有・連絡を密にし、例えば最初に認知したら、そのことを関係機関が共有する必要があり、そういう仕組み作りが必要だと思う。
- ・ 警察への期待は、地域住民、子供たちの安全安心のためのニーズに答えてくれることである。警察と聞くと、大変そうな印象を持たれるが、憧れの存在であってほしいと思っている。人材育成は非常に重要な課題であると思う。
- ・ 子供は色々な犯罪に巻き込まれる、知らないが故に犯罪を犯す場合もある。教育は大事であるが、家族が小規模化し、祖父母から教わる機会も少なくなっている。家庭だけでなく地域社会ぐるみで協力していくことが大切である。
- ・ 富山県では、信号のない横断歩道で交通事故がよく起きていることから、警察とも協力して、事故防止を呼び掛ける漫画やイラストを描いた看板を作製し、一人一人がその看板を持って、交通事故防止を訴えた。やはり、住民の方々の協力があったこそ、いろいろな問題が解決できるのではないかと思う。

- ・ 登下校時における子供の安全については、交通指導員の方や地域の見守り隊の方が協力して守っていただいているが、高齢化の波が襲ってきており、体制が継続していけるのか心配である。地域のコミュニティをもう一度、完全に戻らないかもしれないが、いろんな形で支えあっていけるようにしたい。
- ・ 高度化する犯罪に対応するためには、組織の強化と言うか、人をある程度集約していくことも必要になってくる。求められることとやらなければいけないこと、それが相反する中で、どうクリアしていくのか、ひとつの突破口になるのが、ICTやデジタル化、防犯カメラなどの活用があり、いろいろ組み合わせながら、トータルとして県民の安全安心を守っていくことが重要ではないかと思う。
- ・ デジタル化は、どんな業務がデジタル化できるのか取り出し、やりやすいものから取り組むと効果が見えてくる。そうすると、他の業務でもデジタル化できるものはないか考え、多分これから次の段階は、今やっている仕事のやり方をデジタル化できるように見直していくことであろう。
- ・ 駐在所は住民の安全安心の確保に大変な役割を果たしている。駐在所長は住民と接触する機会が多く、防犯から交通安全までいろんな情報を提供していただいている。警察官の活動と地域との繋がりが、地域のパートナーシップにつながっていく。
- ・ 以前は、プライバシーの観点から、防犯カメラをそんなに入れてよいものだろうかという意見であったが、今では公道における防犯の方が大事という意見が増えてきており、防犯カメラを増やす必要があるのではないかと思う。
- ・ ハイテク化の前にやはり業務の見直し、スリム化が重要であるが、法的に決められたものはスリム化出来ないのもので、その点だけ留意すべき。
- ・ コロナウイルスが進むと、東京一極集中と地方創生が同時に起きる。それから、IT化・AI化とヒューマンタッチこれも同時に進む。このバランスをどうとっていくか、効率化をどうとっていくかがすごく大事で、懇話会の中で考えてもらえば良いと思う。
- ・ テクノロジーを最大限活用しながら、同時に日本の警察の良さというか、日本自体のアドバンテージである地域社会に根ざした治安というものを生かしながら機能強化を図っていく必要がある。日本的な味付けを維持しながらいくということが、日本の治安を守るだけでなく、地域社会の良いところを継承していくのではないかと思う。治安というものは単に独立しているものではなく、日本社会そのもの、地域社会の佇まいというものを現しているところもあり、時代の変遷で大きく警察行政も変わる中で、上手く乗り越えないと日本的な良さもなくなっていく。